



政務活動報告書

令和2年2月7日

[会派名: 喜働]

代表者氏名	川合 滋 	記録者氏名	足立 淑絵 
活動者氏名	川合 滋 足立 淑絵		
活動日	令和元年11月21日(木)～ 令和元年11月22日(金)		
活動先	・海士町:島根県隠岐郡海士町大字海士1490 ・隠岐國学習センター:島根県隠岐郡海士町大字福井1339 ・海士町教育委員会 地域共育課(あまマーレ) :島根県隠岐郡海士町大字海士4958-1		
活動目的	・海士町:『環境型新漁業創造にむけた離島発!6次産業化の展開』 ・隠岐國学習センター:『隠岐島前教育魅力化プロジェクト』 ・海士町教育委員会 地域共育課(あまマーレ): 『森のようちえん 島を遊びこむ お山の教室』		



★海士町：『環境型新漁業創造にむけた離島発！6次産業化の展開』

○漁業での取組

(1)魚関係

- ・漁業の衰退をキッカケに計画生産できる岩牡蠣の養殖を始める。
- ・なまこを加工して販売する。
- ・大量にあるサザエは家庭料理のカレーの具材として使われているため、これをレトルトカレーとして『島では常識：さざえカレー』として販売する。
- ・離島は流通に時間がかかるため、解凍しても生魚に負けないCAS凍結センター（芯温と表面温度を均等に溶かす技術）を全国でもいち早く建てて、漁業の活性化に努める。
- ・CAS凍結した海産物は、海外にも販売先有り。
- ・CAS凍結センターは業務委託しているものの、町が株を半数以上持っているため、町営に近い存在。
- ・定置網も始めるが、ノウハウを持つ人が少ないため、苦戦している。

(2)海藻関係

- ・岡部株式会社（鉄鋼を仕入れる会社）が事業の一環で、藻類学研究に取り組む。
 - ・海藻センターを6～7億円かけて建てた。
- ・東京海洋大学との繋がり、海藻の種を研究。

○畜産業での取組

- ・現在、1次産業で儲けているのは、畜産。
- ・以前は子牛を売っていたが、平成16年から建設会社が畜産部門に参入してきて、木材の廃材と牛の糞で堆肥づくりを始める。
- ・その後、建設会社が肥育牛（隠岐の島では初めて）にも取り組み、生産拡大。
- ・安定供給が出来るようになり、東京の市場に出し始めた。
- ・放牧して牛を飼っているため、非常に美味しい牛肉で、高値がつき儲かる。
- ・米作りでは販売価格に限度があるので、あまり儲からない。

○移住・定住の取組

- ・公営住宅（50年耐用年数）だと規制が多すぎるため、定住促進住宅や産業体験住宅を建てる。
- ・定住促進住宅を建てる。（起債事業で7割補助）
- ・産業体験住宅も建てる。（県へお願いするのではなく、直接、国へお願いしに行く。）
- ・20年前から住宅を作り始めて、15年前からIターン者が増え、流れが顕著に表れるようになった。
- ・Iターン者への手厚い行政のやり方に不満が出たが、Uターン者のいない現実が分かり、徐々に理解を示し始めた。
- ・小学校1クラスの半数以上は、Iターン者の子ども。

○役所の取組

- ・平成14年頃の市長村合併が推進されていたころ、100億円の借金があった。
- ・町長自ら給与50%カット。職員も自ら給与最大20%カット。(未来への投資)
- ・今までは東京がタグボート。これからは島がタグボート。
- ・やる気のある方のステージを作る。今後、第2役場(第3セクター)を作り、出向させて副業を可能にする。
- ・第2役場では、役所の仕事も民間の仕事も『こちゃませ』で仕事をしていく。

◎所感◎

地域に元々あるものを大切に育て上げていく、また他業種からの1次産業への支援や協働、違う切り口からの手法により産業を活性化させていく。更には今後、企業同士だけでなく行政も交じっていくことで、これからの新たな役所の在り方の一端を見せていただきました。

★隠岐國学習センター：『隠岐島前教育魅力化プロジェクト』

○経緯

- ・平成20年 全学年1クラス化(全校で3クラス)
※島から高校が無くなるかもしれない話が持ち上がる。
- ・平成22年 「島前高校魅力化プロジェクト」開始
- ・平成23年 「離島・中山間地域の高校魅力化・活性化事業(県教委)」開始
(3年間)
- ・平成26年 全学年2クラス化(平成17年以来、9年ぶり)
- ・平成27年 スーパーグローバルハイスクール(SGH)校に指定
(文科省 平成31年まで5年間)
- ・平成28年 マレーシアより留学生(女子1名)受入
- ・平成29年 グリーンランドより留学生(女子1名)受入
- ・平成30年 コスタリカより留学生(男子1名)受入
※現在は、年間2000人の視察者を受け入れる。
※アジア圏の若者を集めて、1週間、英語のみで交流(東芝の財団)
※埼玉県教育委員会と連携しての取組も有る。

○教育の魅力化を拒む免疫(抗体)のようなもの

- ・学校教育を考える際の「地域文脈」へのアレルギー
⇒「教育文脈」と「地域文脈」の2項対立構造
- ・新しい学びのあり方(新学力観)へのアレルギー
⇒「従来の学力観」から「新しい学力観」への転換
⇒「従来型の価値観」から「新しい価値観」への転換
- ・多忙化へのアレルギー
⇒「業務改善・働き方改革」と「教育改革」は車の両輪

※情報共有ソフト「スラッグ」を使い、先生の多忙を減らす。

- ・異文化、異質なものを受け入れることへのアレルギー
- ⇒自分達を肯定してくれない人達、よく分からない人達に対して

※危機的な状況 ⇒ 目指すべき姿へ =

高校存続 ⇒ 学校を拠点とした地域の未来づくり

○地域との協働による推進母体

- ・隠岐島前高等学校の魅力化と永遠の発展の会(魅力化の会)設立 20名
- ・役員は、島前3町村の町村長、議長、教育長、総務課長、3中学校校長、高校校長、PTA会長、OB/OG 会長等
- ・指標:入学率増(島前地域内、島前地域外共に)

※コーディネーターを校内に配置し、三方良しのビジョンを策定。

推進協議会(実働部隊30名)を中心に実現化へ。

○学習支援センターと幼稚園、小中学校、高校、島根大学、看護学校との繋がりづくり

- ・コーディネーターがひたすら足を運ぶ。
- ・センターの高校3年生の担当者と学校の先生で繋がりづくり。
- ・学校の時間割に、「夢探求(何のために学ぶのか)」や学習センターの時間を組み込んでくれた。

○先生方の多忙解消

- ・個別最適化 iPad を使用
- ・『QUBERA(アクティブラーニング)』を活用
- ・先生たちのプリント作成と採点の時間を短縮

○従来の社会と今後の社会

(1)従来

- ・工業化、中央集権化、標準化、大量生産大量消費
- ・指示を受け早く正確に唯一解を出す力、知識力
- ・試験や受験合格に向けた外発的学習動機
- ・教室や学校に閉ざされた教育

(2)今後

- ・情報化、国際化、AI化、多様化、複雑化
- ・主体性、協働性、創造性、課題発見解決力
- ・自己実現・社会に向けた内発的学習動機
- ・地域社会に開かれた教育

○高度成長社会(グローバルセンス)と持続可能社会(ローカルセンス)

= 2項対立 ⇒ 2項循環へ

☆高度成長社会(improvement)

- ・ファースト、早い安い便利
- ・大量生産、大量消費、規格品、使い捨て、フリートレード
- ・グローバル、ビッグビジネス

- ・古きを壊し、新しきを造る。Scrap & Build
- ・競争、占有、対立、勝ち負け
- ・一極集中、中央集権型

☆持続可能社会(maintenance)

- ・スロー、安心安全健康
- ・少量多品種、高付加価値、4R、循環型、フェアトレード
- ・ソーシャル・コミュニティビジネス
- ・古きを活かし、新しきに繋ぐ。温故知新
- ・共創・共有・協働・三方よし
- ・自律分散、ネットワーク型

○今後なくなる仕事となくなる仕事

☆なくなる仕事

- ・定型業務の反復的な仕事
- ・秩序的、体系的操作が求められる仕事
- ・マニュアルを覚え、早く正確に再現する仕事

☆なくなる仕事

- ・知の創造、課題発見、解決する力
- ・多様な他社との協働する力
- ・サービス志向の高い仕事

○学校の役割を再定義 = **地域の担い手育成**

- ・地域の課題(悪循環)
既存産業衰退、若者流出、後継者不足、公共依存
(少子高齢化、文化・行事の衰退、財政難)
- ・地域の向かう指針
産業創出、若者定住促進、継承者育成、自立協働
- ・求められている人材
地域で新たな生業・継業を創り出せる人材(地域起業家的グローバル人材)

※人の自給自足・・・「仕事がないから帰れない」⇒「仕事をつくりたい」

○島前高校魅力化PJの指針

(1)自己実現

- ・生徒ひとりひとりの**夢の実現**
- ・進路実績 × 進路満足度 UP
- ・学力 × **社会人基礎力 UP**

(2)学校 × 地域の融合教育

- ・コミュニティースクール化
- ・地域住民の参画度 UP
- ・学校、生徒による地域貢献 UP

(3)地域活性

- ・地域の未来を創る人材の育成
- ・地域エンゲージメント UP
- ・Uターン率、**地域起業家 UP**

(4)意欲の高い生徒・教員・多彩な支援

- ・生徒数増(島前内入学率 UP + **島外からの入学数 UP**)
- ・教員数増(2学級継続、希望移動者数 UP)
- ・支援額増(寄付金、ふるさと納税など)

※日本の地域・教育活性の一助となる。

○人生において重要な3つの資本

☆経済資本

- ・財産(お金、土地、資源など)

☆文化資本

- ・学歴、芸術性、振る舞い、言葉遣い

☆社会関係資本

- ・人間関係、信頼、助け合い

※すべて学力と相関

○島根県が考える将来必要な力

1. 主体的に課題を見つけ、様々な他社と協働しながら、答えのない課題にも粘り強く向かっていく力
2. 先見性と仲間づくり

○地域みらい留学の目的と魅力(島前高校の半数が島外からの留学)

☆目的

- ・多くの課題を抱えた地域という世界の先進地で、立場や世代を超えた多様な人々と、実社会の縮図体験となる3年間を過ごす。

☆魅力

- ・新たな友達、世代を超えた仲間との出会いがある。
- ・ここでしか出来ない挑戦がある。
- ・本物の自然や文化にふれる。
- ・地域が見守る安心な環境で自律した生活ができる。
- ・少人数教育で全員が主役。
- ・都会や海外に比べて少ない費用。

※自分の意志で挑戦を続け、自ら未来をつくる力が求められる。

◎所感◎

社会的にも大きな転換期を迎える中、資源も人材も限られる中、いかに地域で活躍する人を確保していくのか、どの地域も必死に取り組んでいると察しました。今までの「志を果たして帰る」故郷から「志を果たしに還る」人づくりへの考え方の転換と「可愛い子には旅をさせよ。」古くからの諺が身に染みた研修となりました。

★海士町教育委員会 地域共育課(あまマーレ):

『森のようちえん 島を遊びこむ お山の教室』

○概要

- ・「NPO法人隠岐しぜんむら」が海士町教育委員会より委託を受けて運営。
- ・森のようちえん:デンマーク発祥
- ・基本的には園舎はなく、自然の中で過ごす。
- ・非認知能力(意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力といった測定できない個人の特性による能力)を育てる。
- ・大人は待つ、見守ることを大切にし、主体的な遊びができるようにする。
- ・対象:満3歳から小学校入学までの幼児
- ・おむつが取れていること、大人の見えない所へは行かないことがルール。

○経緯

- ・2012年 お散歩会が始まる。
- ・2014年 お山の教室 週1回スタート
- ・2016年 教育委員会支援 週3回スタート
- ・2018年 教育委員会支援 週5回スタート
許可外保育施設 認定

○背景・課題

- ・2014年頃から待機児童が出てきた。
- ・せっかくの自然溢れる島なのに、子どもたちが自然に触れる機会が少ない。
- ・海遊び、外遊びを保護者が出来ない。(自然で遊んだ経験がない。)
- ・自分で考える、決める、工夫するなど、主体的な遊びが少ない。

○目的・達成課題

☆目的

～生きる根っこを育む～

- ・島の自然の中で、子どもがその子らしくのびのび遊び学び、将来、自分の花を咲かせられるよう、これから生きていく根っことなる力を育てていく。

☆達成課題☆

- ①多くの子どもたちに自然体験の機会を与える。
- ②島をまるごとフィールドに、様々な体験をすることで、自己肯定感や主体性など、これから生きていく上で根っことなる力を育む。
- ③ふるさと教育として、地域に入り込み、地域や季節ごとの旬を感じる体験ができるようにする。
- ④移住・定住のキッカケの1つとなるように、島だからこそできる幼児教育の魅力化を推進する。

○「NPO法人隠岐しぜんむら」について

☆内容

- ・10年程前から行う。
- ・3人で携わる。
- ・ジオパークの管理、環境保全事業、小学生向けのお山の教室の開催、ガイド事業

☆運営

- ・地球環境基金、森と緑の環境資金、離島交付金(3年間)利用
- ・集落支援員として雇われる。
- ・人件費は教育委員会持ち。

○島をまるごと遊びこむ!!

- ・草を摘み、虫を捕る。
 - ・坂道をのぼり、海に飛び込む。
 - ・雑草が生い茂る道でも、踏み固めながら歩く。
 - ・山のトイレは道端の原っぱで。バイオマストイレもある。
 - ・田んぼや畑、神社やトンネルなどを探訪。
 - ・地元の漁師や農家の方との触れ合いもある。
 - ・お弁当の日は、お寺や田んぼのあぜ道、農家の軒先など、いろいろな場所でランチタイム。
 - ・山の麓のコミュニティ施設「あまマーレ」で昼寝
 - ・イチゴや梅、栗など自然の中で収穫体験
- ※「指導」ではなく「支援」を保育の基本とする。

○効果

- ・子ども達は、自然の中で遊ぶことで五感(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚)が育つ。
- ・保護者達は、ボランティア・スタッフとして参加することで、みんなで育てている感覚になり、子育ての孤立化の解消の効果を得る。
- ・高齢者は、交流の機会が昔遊びなどで手足を動かし、健康づくりの一助を担っている。
- ・町への移住・定住人口が増加した。

○環境教育としての段階

感じる	体験	幼児	お山の教室
知る	観察・つながり	小学校	-----
理解する	地域産業、地域活動	中学校	-----
取り組む	地域の課題解決	高校	高校魅力化

◎所管◎

「お山の教室」の効果は、地(自然との共生力)、情(感謝の心、奉仕の心、思いやりの心)、結(受容力、連帯力、表現力)、智(思考力、知識力、創造力)、志(挑戦力、行動力、忍耐力)、健(心の健康、体の健康)と、幼児期における教育が、どれほど子どもの未来に影響するか、まざまざと見せていただきました。